

世界最高水準の宇宙科学研究の推進

平成19年度概算要求額:27,709百万円
 (平成18年度予算額):26,030百万円
 ※運営費交付金中の推計額を含む

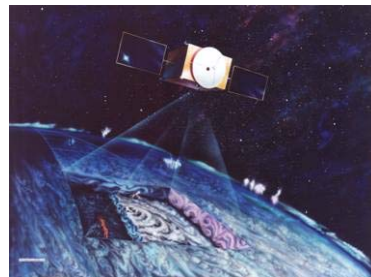
○独創性の高い太陽系探査科学、天文観測の重点的推進

月周回衛星(SELENE)、第24号科学衛星(PLANET-C:金星探査機)、
 BEPI COLOMBO、第25号科学衛星(ASTRO-G:電波天文観測衛星)等科学衛星計画の推進

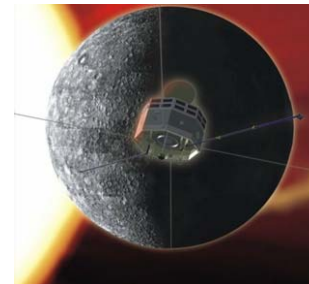
月周回衛星(SELENE)の開発
 月の科学と利用可能性を調査するため、月面の重力、磁場、組成等を観測研究。



第24号科学衛星(PLANET-C)の開発
 金星の大気循環過程と構造を立体的に観測し、惑星気象の根本原理と大気進化の謎を研究。



BEPI COLOMBOの開発
 水星の磁場・磁気圏・内部・表層にわたる総合観測で水星の現在と過去を解明。



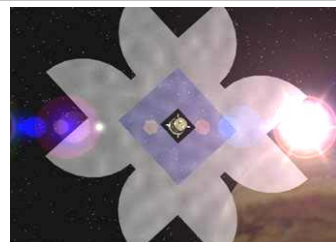
第25号科学衛星(ASTRO-G)の開発
 ブラックホールやその周りの降着円盤を撮像し、その構造や、高速に近いジェットが発生メカニズムを解明。



○将来の宇宙科学研究を支える最先端の科学衛星関連技術の基礎研究の強化

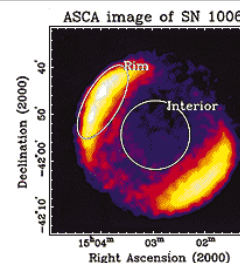
ソーラー電力セイル、大口径望遠鏡システム技術等先進的技術の基礎研究

宇宙科学の基礎研究の強化
 ・研究者の自由な発想に基づく研究を推進
 ・普遍的な知の探求を長期的視点の下で推進



ソーラー電力セイル技術

未だ世界でどこの国も試みたことのない全くの新型の宇宙船を木星などの外惑星に飛行させるための技術の基礎研究



縮退星から銀河までのあらゆるクラスの天体の理解を発展させるX線天体物理学研究(高エネルギー天文学)

→ 人類の英知を生む知の源泉となる基礎研究